

## 新登録答申文化財概要（三重県）

【種 別】	国登録有形文化財（建造物）	
【名 称】	服部家住宅主屋（はっとりけじゅうたくしゅおく）	1棟
	服部家住宅納屋（はっとりけじゅうたくなや）	1棟
	服部家住宅土蔵（はっとりけじゅうたくどぞう）	1棟
	服部家住宅表門（はっとりけじゅうたくおもてもん）	1棟
		計4件

【所在地】四日市市小杉町

【年 代】主屋：昭和9年

納屋：昭和13年頃／昭和後期改修

土蔵：昭和11年頃

表門：昭和12年頃

【建築面積】主屋：300㎡、納屋：20㎡、土蔵：50㎡、表門：間口1.55m

服部家住宅は、四日市市小杉町の南部、海蔵川（かいぞうがわ）の南岸にあります。服部家は江戸末期より農業とともに商業を営み、明治末期には三重県下屈指の米穀商となりました。現所有者の祖父が住宅として建物を建設し、現在は一部が茶会等に活用されています。

敷地中央に建つ主屋は、入母屋造（いりもやづくり）の総二階建てで、東西に平屋棟（ひらやと）を付し、外壁は杉皮張（すぎかわばり）となっており、垢抜けした外観が印象的な建物です。1階に数寄屋風（すきやふう）、2階に書院造風（しょいんづくりふう）の座敷を配し、応接間や食堂は洋室とするなど、良材を多用した上質な近代和風住宅です。棟札（むなふだ）から、建物の設計と施工を大阪の工務店が行ったことが知られ、広い交遊がうかがわれます。

主屋と表門の間にある納屋は、屋根を入母屋造（いりもやづくり）、外壁を杉皮張（すぎかわばり）として、主屋と調和するような装いとなっています。敷地北隅にある土蔵は渡り廊下で主屋とつながっており、外壁のモルタル仕上げや建物のつくり方に近代的な要素が見て取れます。街路に面した表門は四脚門（しきゃくもん）で、格式ある表構えをしており、落ち着いた街路景観を形作っています。



主屋 玄関正面



主屋外観 (北面・東面)



主屋 2階 座敷 (書院造風)



主屋 1階 応接室 (洋間)



納屋 (東面)



表門・土蔵 (北面)